



# 8-12 月期 行事实施報告

## 「仙山線の歴史を辿る」講座開催 鉄の道部会

平成 25 年 5 月より始まった広瀬市民センター連携による「仙山線の歴史を辿る」講座は、第 1 回「仙山線の魅力紹介」、第 2 回で「鉄と土の道の交差点、踏切と街道」をテーマに決めた。

第 3 回以降は、6 月から 11 月まで現地踏査をした。猛暑のさなかも行われるなど、かなり過酷な講座 (!?) だったが、「どこに踏切があるのか、実際に歩いてみようということから、宮城側は宮城地区内を皮切りに、山形側は山寺での座談会に合わせ、山寺から高瀬までの現地調査を行いました。できるところまで歩こう！という当初のねらいが、結局ほとんど全線を歩いてしまいました。歩くことで見える歴史を感じながら、仙山線が果たしている役割について考えるよい機会になりました」と受講生。現在、膨大な調査資料をもとに、新たな「仙山線物語」を編集集中。成果が待たれるところだ。



## 探訪会その 1 定義道を歩こう！ 土の道部会

11 月 10 日 (日)、晩秋の定義を探索しました。参加者は一般の方も含め 16 名。関山街道から定義にいたる道は現在立派な道路となっていますが、かつては古道「定義道」を歩いて参拝したそう。大倉滝上から 4 キロの道のりを歩いてみました。定義の新たな魅力、発見！



写真左上：ご案内は定義町内会長の庄司勝壽さん。

写真右上：高森山頂付近の古碑。古道だった面影が残る。

写真左下：定義の説明は「みっちゃん」こと早坂光子さん。

写真右下：この日はあいにくの雨。遠くに定義の街が。

## 探訪会その 2 歴史と文化のまち、八幡を歩く！ 土の道部会

11 月 23 日 (土・祝)、関山街道の起点となる八幡のまちを歩きました。参加者は 21 名 (一般含む)。案内役をしてくださったのは「四ツ谷の水を街並みに！市民の会」会長 新聞昌利氏、「八幡地区まちづくり協議会」加藤一雄氏。「身近にある魅力に気づけなかった。感謝です」と参加者の声。大変お世話になりました。



写真左上：由緒ある大崎八幡。

写真右上：蒙古の碑

写真左下：山上清水。今でも清水が湧き出ているそう！

写真右下：聖橋から文殊堂へ。そろそろ終着点。

## 「関山愛林公益会」と初の交流会 TOPIC

去る 11 月 6 日、当協議会と東根市の関山地区を管理する関山愛林公益会 (清野栄三理事長) は、東根市・西原公民館において初の交流会を開いた。自治体の枠を越えて、両者をつなぐ関山街道についての理解をさらに深めていくことが目的。

特に、明治時代に宮城側、山形側から進められた新道工事が関山峠にいたった際に大きな犠牲が払われたことに思いを馳せ、合同慰霊祭を行うことを検討、開催の確認に至った。



「街道が宮々と改修、整備されてきた意義を伝える必要がある」(仙台側から)・「仙台との交流発展に生かす」(山形側から)

## 旧関山街道開削殉難の碑について

宮城地区雑記控 誕生余話 Vol. 2

仙台市宮城地区郷土史探訪会顧問  
関山街道フォーラム協議会副会長



本間一夫

「関山街道フォーラム」副会長の工藤氏が、山形県東根市の社団法人「関山愛林公益会」との話し合いを重ねて、明治十五年 (1882) に開通した旧関山街道トンネルの工事用爆発事故で二十三名が死亡した事件の、合同慰霊祭を企画し、山形側と調整中です。

私は郷土史探訪会の立場から「関山街道開

削殉難碑」についてお話ししたい。

江戸時代から関山街道は『山上の嶺渡り』と呼ばれ、馬も通れない細い峰から峰への道でした。

明治に入り、関山新道の開削計画は、宮城県の野蒜築港に関連し、太平洋側と日本海側の物資交流が目的でした。

路線は三案あり、中新田と尾花沢を結ぶ路線、秋保から山寺を結ぶ線、そして仙台から関山の線でしたが検討の結果、仙台、関山線が採用されたが、野蒜築港は工事半ばに台風による破壊で中断され完成を見ることはなかった。新道工事は宮城県側が明治十二年 (1879) 着工、山形側の着工は明治十三年 (1880)、六月二十五日であった。

関山新道開削の最大の難関は、287メートルのトンネル工事であった。同年七月二日、工事前火薬を宮城県側から運び上げる作業中に、江戸時代仙台藩坂下境目御番所があった狭い平地で休憩、その際の煙草火の不始末から火薬四十箱の大爆発事故が発生し、死者二十三名 (胎児一名を含む) 重症者八名、軽傷者数名に上り、遺体が散乱する現場は正視に耐えない地獄絵図であったと伝えられる。

明治十五年 (1882) 十一月開通、昭和四三年 (1968) までの八六年間、宮城山形間の大動脈として産業の発展と文化の交流に寄与し、脚光を浴びた街道の完成の蔭に、二十三名の尊い犠牲があったことを想えば、仙台・山形の合同慰霊祭も当然のことであり、遅きに失した感もある。

工藤氏の努力に感謝したい。

旧宮城町時代の「広報みやぎ (昭和六二年八月号)」から、表紙を飾った郷土史探訪会による「関山隧道慰霊祭」の模様。

